

令和2年度 第2回 伊勢市男女共同参画審議会 会議概要

日 時 令和3年2月19日（金） 10:00～11:05

場 所 伊勢市役所東館5階 5-3 会議室

出席者 下野功純委員、山川一子委員、杉野裕子委員、牛江康子委員、秋山則子委員、
白神慶助委員、山本はるみ委員、中村弥生委員、早川千奈美委員、
泉 恵子委員、高木俊宏委員、田岡光生委員

欠席者 東剛寛委員、中村千鶴子委員、佐々木公子委員、

事務局 環境生活部参事 辻 浩利、市民交流課副参事 丸山美幸、市民交流課主査 西ますみ

議 題 1 令和元年度伊勢市男女共同参画基本計画実施状況報告書（案）について
2 令和2年度の事業報告について
3 その他

概 要 ○ 会長あいさつ

- ・コロナ禍、人が集まっての事業の実施が難しい。一日も早い収束を願う。
- ・オリンピック組織委員会一連の騒動で、女性蔑視の意識が取り沙汰されている。日本人の性別的な固定観念が根底にあり、我々の無意識の中に浸透してしまっている。この審議会における重要課題であり、今後も啓発していかなければならない。

○議事進行（本審議会は15名中出席12名で成立）

1 伊勢市男女共同参画基本計画実施状況報告書（案）について

（※事前配布資料「令和元年度伊勢市男女共同参画基本計画実施状況報告書（案）」参照）

【審議会による評価及び意見】について審議

会長：第1回審議会で、皆様からご発言いただいた内容について、19ページの5審議会による評価及び意見にまとめたものを提出してもらっている。報告書本編は前回合議をいただいているので、19ページ5の「審議会の意見」について意見を求める。

委員：2段落目にある、「女性の管理職登用をもっと進めていくためには、女性の意識啓発とスキルを身につける必要があるが、同時に相談体制を強化するなど、条件整備も課題である。」の箇所について、条件整備は当然のことながら、具現化するなら、相談体制よりも、女性管理職の研修強化など、もっと具体的な事例を挙げ、条件整備に働きかける内容の方が受け入れやすい。「相談体制を整える」という表現を見直した方がよいのではないかと

事務局：相談体制を挙げたのは、一般的に周囲に女性管理職がないという状況でどうしていいかわからない、手本になるロールモデルが周りにいないから、不安を抱えている人が多いためであるが、それよりも、女性管理職を増やし、その人に相談していくことができるというのが前提にある。ご意見のように「研修体制を強化する」を採用するなら、前段の「スキルを身につける」とつながってくるので、この文章全体を見直した方がよろしいか。確かに、女性にいきなり管理職抜擢への話があっても抵抗される方も多いため、そこを解決するための条件整備という風にしていくのがよいか。「相談体制」の部分は、確かにわ

かりにくいので、例えば、「意識啓発とスキルを身につける必要があり、研修を強化するなど、条件整備が課題である」とするとどうか。皆様のご意見を伺いたい。

委員：この「相談」という言葉は、具体的ではないだけに様々な要素を含んでいる。疑問を全部聞きましょうという事だから、むしろこの言葉は必要。研修を加えればわかりやすくなるが、女性の声を聴く大事なことであり、相談という言葉は消す必要はない。

委員：ここでいうところの相談は、管理職になった人、あるいは企業が整備する相談窓口のことか、これから管理職になろうとする人の相談体制のどちらなのか。中小企業はおそらく女性管理職の数が少ないが、外部相談機関に相談できるシステムを整えるのか。相談というのはいいことだとは思いますが、その辺が曖昧である。

会長：どちらか二社択一という意味ではないが、相談について、また研修など具体例を挙げる点など、含めて考えるということになると、文章校正についてはどうすればよいか。

委員：これから管理職になる女性の相談なのか、雇用者側の相談があるのか、相談体制という言葉だけではわからない。女性の場合は管理職が少ないので相談する人がいないということも、この文には見えてこない。もう少し説明がいるのでは。

委員：「女性の管理職登用をもっと進めていくためには、女性の意識啓発が必要」と書いてあるが、女性に限らず、男性側も男性社会になってしまっているところがあるので、女性を登用していくというところの意識を持ってほしいと考える。

委員：この段落は、全部女性が主語的に書いてあるのでそのまま、今回の発言をもう一文付け加える形で後ろに併せて男性の啓発も必要であると表してはどうか。

会長：女性の人権問題と表せば、それは男性も考えなければならない問題であり、女性の意識啓発のみでなく男性も啓発しなくてはという意見はもっともなことである。但し、今回の指摘部分は管理職になる女性への意識啓発であるため、男女を問わず様々な課題を考えていかなければならない事について、事務局で追加・訂正し、委員の皆様へ提示する形で、事務局はどうか。

事務局：いただいた意見を合わせて、文章を訂正し、委員の皆様へ提示する。

会長：このことについて、意見が無ければ、事務局から委員に修正文を提示し、承認をとり、これでまとめという事でよいか。（異議なし）

ご了解を得たので、この審議は終わりたい。

2 令和2年度の事業報告について

《事務局より発表》 【資料1】

変更点：開催（予定）となっていた、R3.2.14の市民講座「SDGsってなに？」は、コロナ感染拡大に考慮して中止した。

委員：育成セミナーの参加者11人の年代がわかれば教えてほしい。

事務局：年齢は聞いていないが、実際、参加された方のすでに管理者である方、これから管理職になられる方両方が参加されたため、50代の方もいれば、30～40代の方もいる。

委員：女性管理職セミナーについて、オンラインでの開催は、参加者の操作的なこと等、トラブルなくスムーズにできたか。

事務局：今年度初めての試みで、セミナーの実施は業者に委託した。当日接続できないことが無いように、希望される参加者には事前にテストをしていただき、問題なくできた。Zoomを使用した、セミナー中も操作方法の説明があった。

委員：セミナーに参加したが、いろいろな人と交流し視野もひろがり、有意義な時間になった。わからないことはチャットで打ち込んで会話もできた。ただ、会議時間が1時から5時と長かったため、もう少しコンパクトだとよかった。

委員：2時間が限度かと。

事務局：女性管理職へのスキルアップを目指すとなるとどうしても内容が濃くなるため、2日間に分けるか、1日に詰めるかというところがあった。長時間にわたったが、参加された方には、講師先生が休憩時間をうまく取り入れてくださったため、4時間でもあつという間だったという感想もいただいた。初めての試みとしては、よかったと考える。

会長：参加人数が伸びていないが、こちらから呼びかけて参加を促すというようなことは？

事務局：企業訪問の時も含めて、企業の方に声かけは行った。コロナ禍だからオンラインだと参加しやすいかなというところもあるが、一方、企業で出勤調整をするなど影響があったため、長時間のセミナーということで参加者が伸びなかったかもしれない。

会長：長時間、画面を見ての操作はつらいので、今後は機会を分散するという方法も考えられてはどうか。

委員：市民向けの啓発、映画上映会について150人の参加は好評を得ている。この映画の会の目的は、男女共同参画を推進するのに有効な内容だったのか、それとも男女こぞって見に行くというところを重点としていたのか。そのどちらの目的かによって、2回以上の上映をすることについて検討の余地があると考えます。

委員：れいんぼう伊勢として返答。男女共同参画を映画の中からヒントを得て考えていただくという事業を三重男女共同参画連携映画祭、その前から長期に渡り行っている。今回上映の「長いお別れ」という作品は、認知症の父親を中心に7年間の家族の葛藤、思いやり、愛情を描いた作品であるが、お互いがお互いを支えあって7年間を生きたといいところから、男女共同参画につながる部分をその人なりに見つけてもらう。映画の後のアンケートでも好評だったが、参加者は60歳以上など高齢の方が多かった。もっと若い人にも来ていただける映画も、検討したい。昨年は特にコロナ禍で出られないという事も手伝って申し込みが殺到し、早々に申し込みを締め切ったが、例えば、午前・午後2回上映をすると、入れ替えに椅子を拭いたり等、準備が大変になる。しかし、今年も同じ状況下で上映するようなことがあれば、多数の方に参加してもらえよう、いろいろ考えていきたい。

委員：時間を夕方とかにしたら若い人等も参加しやすくなると思う。

委員：次の項目、「パートナーの日」の啓発でティッシュ等配付とあるが、これは総合支所などの公共施設にかごを置くか。

委員：手渡しができないため、それも実施した。

委員：8月終盤に小俣総合支所に行ったが、「パートナーの日」の啓発があったかどうか見ていない。早く持っていかれて無くなったのか、端に置かれて気づかなかったか。職員が周知説明するなど、もう少し考えた方がよかったのでは。

委員：今年は手渡しができなかったため、「パートナーの日懸垂幕」の掲出、伊勢志摩ホームニュースにて昨年と同様広告の掲載等、皆さまの目に幅広く行き届くようにしましたが、啓発物品配置についても一声かける等、考えていきたい。

委員：「パートナーの日」の幟はあるのか。啓発時に幟を立てたら目立つのでは？

委員：「パートナーの日」の啓発は8月しかしないのか。

事務局：市役所館内では、PC上のインフォメーションにて「パートナーの日推進デー」として、毎月平日の17日は全庁に発信している。

委員：大々的な周知イベントは8月17日を中心に行う。今年はコロナ禍で講演会とかはなかったが、例年は講演会を一緒にしながらパートナーの日を周知をしている。またれいんぼう伊勢が主催するイベントでは、必ず「パートナーの日」啓発物品のティッシュと啓発チラシを印刷したものを配っている。啓発は基本的には1年を通じて行っている。

会長：今年度はすべてがコロナ禍ということで事業が思うように進まなかったが、逆にコロナにより、いろいろな課題が浮き彫りにされた。審議会だけではなく、皆様活動範囲の中で色々あると思うので、それをチェックしながら次年度の取り組みを進めて行ければと考える。特になければこれで2年度の事業報告については終了としたい。

2 その他

委員：令和3年度、またれいんぼう伊勢で男女共同参画推進の取り組みを進めるが、コロナ禍での活動が難しい。しかしながら、今、オリンピックを前に、男女平等、男女共同参画に国民の関心が高まっている時だと思う。このチャンスを逃さずにできることを考えている。周知は広報いせに載せるという前提があるので、1か月前には原稿を出さなければならぬが、オリンピックの前には何かしたいと考えている。審議会の皆さんの考えの中で知恵を拝借できればと、いい案があれば何かご提案いただきたい。

会長：時間を10分くらいとりますので、ご意見を。

委員：皆様、川柳とか興味あるみたいですので、男女共同参画の内容、家庭内の出来事とか、面白いこととか。

委員：今年のパートナーの日の啓発案として考えている。川柳、絵手紙、幅広く市民に募集しようかなと考えている。

会長：まちづくり協議会では、標語を募集し、入選作品をティッシュに載せたりしてそのあとそれを配付するというようなことをしている。簡単に誰でも取り組めるようなものもいいかもしれない。

委員：消防団で、防災ゲームというカードゲームがあり、「今、地震が起きました、あなたは消防団員で、現場に向かうように指示が出ています。しかし、外に出たら人が倒れています。あなたはどうしますか？」など、参加者が考えながら進めていくものがある。男女共同参画でも、クイズ形式、ゲーム形式等、手軽な感じにしたものを市のホームページに掲載し、いつでも閲覧できるようにしてはどうか。

委員：民間を通していろいろなイベントをするとき、その参加者について必ず男女の比率をとってはどうか。男女が同時に会するという場合、社会的にはまだまだ男性が社会的なところには参加されることが多い。やはり男女の比率がみえるようにして、女性もこんなに参加

しているなど、そういう意識にならないかと考える。可視化し、男女の比率を常に意識する視点が持てる。

委員：男女共同参画が進んでないというのがよく分かった。「今さら男女共同参画推進か。」という意識を持つ人も多いと感じるが、自身が持つ固定的な性別意識に気づいていない。「男女共同参画を考える」という大きな視点を求めるのではなく、自分の身の回りのちょっとした意識などに視点を合わせて考えてみる。それを啓発するのは、今がチャンスだと思う。

委員：川柳など募集するのはとてもいいアイデアだと思う。発表するときに、「企業内版」とか「家庭内版」とか、グループ分けするとわかりやすくなる。参加する人が自分で能動的に行うことで学ぶことが多いから、講演会と両方2本立てでやってみる企画もいい。

委員：昭和十年代生まれの方は、昔ながらの風潮を今まで引きずってきている。女性、また若い人とか、ある程度分かっている年代の人を対象としていると思う気がするので、難しいと思うが、もっと地域の中に入って、固定的な性別の考えにとらわれている事の気づき等、年齢の高い人への啓発はできないか。

委員：地域に入ってワークショップをさせていただくという事だと思うが、ずいぶん前になるが実際にそれを行っていた。しかし、自治会の役員より動員された参加者が多く、それ以上の話の広がりがなかったという経験がある。

会長：自治会において男女共同参画というテーマで行ったが、そういう時の参加者は地域の高齢者が多い。それを問題提起して、私たちの日本の悪しき文化みたいになってしまっている部分についてちょっとこうメスを入れてもらおうということもできますが、1回では地域住民になかなか広がっていかない。地道な取り組みというのにも必要。

(事務局からの連絡事項)

事務局：本日の資料、事前にお渡しさせていただいたものの他、成果目標の取り組みの推移というグラフを出席者に配付。前回、報告書に数字は羅列してあるが、グラフとかあった方が見やすいとのことで作成。また、目標値について、すでに達成しているものもあるが、そのまま見直しの年まで同水準を保つ事を目標としたい。達成できてない目標については、達成に向け引き続き取り組みさせていただきたい。

また、実施状況報告書の【審議会による評価及び意見】については、再度文章を付記し、締切日を決めて委員の皆様を確認をいただき、特にご意見がなければ、最終会長と相談させていただき、それを承認とさせていただきたい。承認されれば、その後報告書をHPに掲載すること、ご了承いただきたい。

また、今年度の取り組みは、事業の途中での報告であったが、他の部署の取り組みも含め、評価いただくのは次年度となる。先に委員の皆様からいただいた意見を踏まえて、令和3年度の事業については、しっかりと計画し、取り組んでいきたい。

現職委員の任期は2年間で、今年5月31日までとなっている。何かあれば、急遽集まっていたりもするが、今年度は最後となる。6月以降の委員は来年度早々に改めて委員の就任をお願いする。参考までに、計画期間は5年で、来年は4年目に入るため、令和3年度は市民アンケート調査、事業所調査を実施、その結果を踏まえ課題を整理し、令和4年度に第4次計画の策定を予定している。

委員長：ちょっとした時代の変わり目ということで、今後引き続きご支援をいただきたい。

- ・※配布資料等：令和元年度伊勢市男女共同参画基本計画実施状況報告書（案）・
 - ・令和2年度事業報告
 - ・成果目標の取り組みの推移

令和 2 年度事業報告書

男女共同参画の意識普及の推進

男女共同参画社会の実現をめざし、「伊勢市男女共同参画都市宣言」「伊勢市男女共同参画推進条例」の理念を広く周知するため、さまざまな事業に取り組んでいる。

(1) 市民向けの啓発事業

市民向けの啓発事業は、「NPO男女共同参画れいんぼう伊勢」に企画・運営を業務委託し、協働して取り組んでいる。今年度の取組みは以下のとおりである。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年実施している事業の見直しを行い、中止および延期するなど、今年度計画していた事業の大幅な見直しを行った。

ア 三重県内男女共同参画連携映画祭の開催

県内各地で連携して取り組むことで、機運の醸成や意識啓発を効果的に行うことを目的に映画祭を開催した。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、延期または中止が相次ぎ、本市においても6月の男女共同参画週間に合わせて開催する予定であったが、11月21日に延期、入場者を半減し、検温、手指消毒、換気等の感染予防対策を行った上で開催した。

(伊勢市での開催状況)

開催日	開催場所	内 容	参加人数
R2. 11. 21	ハートプラザみその 多目的ホール	映画「長いお別れ」上映会	150 人

イ パートナーの日の啓発推進

男女がお互いを思いやり、感謝する日として条例で定めた「パートナーの日（8月17日）」を広く市民に周知するため、啓発事業を行った。

・啓発品配布

実施日	実施場所	配布数	内 容
R2. 8. 1～ (約 1 ヶ月 間)	・支所、総合支所ほ か市内公共施設 20 か所 ・まちづくり協議会 23 か所	1290 個	パートナーの日啓発チラシ封入 啓発用ウェットティッシュの配布

ウ その他の啓発事業の開催(予定)

男女共同参画推進の一環として、国際社会の重要な課題であるジェンダー平等を含めたSDGsについて学ぶ市民講座を実施予定。

開催日	開催場所	内 容	参加人数
R3. 2. 14	御薊公民館 2階 講堂	市民講座「SDGsってなに？私たちは何をすればいい？！知って始めよう！」 講師 朴 恵淑 氏 (三重大学名誉教授)	50名程度 (予定)

(2) 広報いせへの啓発記事の掲載

男女共同参画に関する意識啓発のため、「広報いせ」紙面を活用し、公募市民3人の企画編集による啓発記事「めざそや！共同参画」を年3回掲載した。

発行	記事概要
7月1日号	男女共同参画って女性を強くするっていうこと？
10月15日号	ワーク・ライフ・バランスって？人それぞれの生き方
2月15日号(予定)	DVは重大な人権侵害！～女性の3人に一人が被害に～

(3) 企業に向けた啓発事業

ア 男女共同参画に取り組む事業者を表彰

- 女性の活躍推進「きらり」賞・・・有限会社くろべ
- 仕事と生活の調和実践賞・・・株式会社コムデック
株式会社ゴーリキ

イ 企業における男女共同参画の推進のため、人権政策課と企業訪問を行った。

訪問期間：12月4日～12月11日。訪問企業数：16社

企 業 名	
シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所	株式会社マスヤ
シンフォニア商事株式会社	横浜ゴム株式会社三重工場
シンフォニアエンジニアリング株式会社	広瀬精工株式会社
株式会社赤福	小橋電機株式会社
株式会社ゴーリキ	株式会社コーヨーファースト
御木本製薬株式会社	株式会社ぎゅーとら
有限会社ウェルフェア三重	有限会社くろべ
株式会社コムデック	有限会社南勢建設設計

(4) 女性の活躍推進事業

ア ワーク・ライフ・バランス推進セミナーの開催

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、広く企業や個人に浸透するよう、働き方の見直しや男性の育児参画、女性活躍の必要性などについて理解促進を図るための講座を実施予定。

開催日	開催場所	内 容	参加人数
R3. 1. 18	伊勢商工会議所 4階中ホール	14:00~15:00 講演 講師：株式会社デルタスタジオ代表取締役社長 若林 辰也氏 (ワーク・ライフ・バランス社認定 ワーク・ライフ・バランスコンサルタント) 15:05~16:00 令和2年度伊勢市男女共同参画推進表彰事業者 取り組み事例発表	30名程度 (予定) ※オンライン 参加あり

イ 女性管理職育成セミナー

管理職及び管理職候補の女性を対象とした研修を実施し、働く女性が抱える課題や不安を解消し、モチベーションアップ、スキルアップにつなげ、意識の改革を図るためのセミナーを実施予定。

開催日	開催場所	内 容	参加人数
R3. 2. 4	オンライン	第1部 「管理職・リーダーとは？リーダーシップとは？」 第2部 「部下やメンバーのやる気を引き出す関わり方」 講師： FAITH代表 小川 由佳氏	30名程度 (予定)